

地震工学委員会 平成 24 年度第 1 回拡大運営幹事会議事録

●日時：平成 24 年 6 月 4 日（月） 15:00～16:30

●場所：土木学会 A 会議室

●出席者：

小長井委員長、清野副委員長、藤原幹事長、秋山幹事、片岡幹事、高橋幹事、富田幹事、濱野幹事、山本幹事、吉見幹事、竹内顧問、田中委員、堀委員、尾崎氏

●配布資料

拡幹 H24-01-01	地震工学委員会 平成 23 年度第 3 回拡大運営幹事会 議事録案
拡幹 H24-01-02(1)～	各小委員会活動状況報告資料（資料なし、口頭で）
拡幹 H24-01-03	調査研究委員会の予算配分方法の見直しについて
拡幹 H24-01-04	地震工学研究発表会における研究小委員会活動の成果報告の可能性についてのお尋ね

●議事

1. 前回議事録確認

- 資料「拡幹 H24-01-01」に沿って藤原幹事長より前回議事録案の説明が行われた。以下の字句等の修正を除いて内容について承認された。

「津波**非難**調査小委員会」→「津波**避難**調査小委員会」

水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会 竹内**委員長**→竹内**副委員長**

2. 小委員会活動報告

- 各小委員会より今年度の活動状況が以下のとおり口頭で報告された。
- 津波避難調査小委員会（田中委員）
 - 総会から特段の変更はなく、予定通り
 - 研究討論会の準備中
 - 全国大会に成果論文投稿中
- 水循環NW施設災害軽減対策研究小委員会（竹内顧問）
 - 5月に片山先生、濱田先生による講演会を開催し、48人参加
 - 鹿島財団から助成を受けられた
 - 討論会（地方でのシンポジウム）を準備中
- 想定地震動研究開発小委員会（堀委員）
 - 予定通り
- 地震防災技術普及小委員会（濱野幹事）
 - 予定通り活動中、定例行事の耐震セミナー（基礎編、実践編）を開催予定
 - 実践編のテキスト出版に着手
 - 東北地方の被災地視察ツアーを9月下旬に企画（委員以外の一般参加も募集する）
- 性能に基づく橋梁の耐震設計法に関する研究小委員会（高橋幹事）
 - シンポジウムを企画中（シンポジウム論文集、被害報告集を作成予定）

- 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（富田幹事）
 - 活動期間の延長が認められた
 - テクノオーシャン オーガナイズドセッション準備（港湾技術研究所との共催の方向）
- 日本土木史「地震工学部門」編纂小委員会（清野副委員長）
 - 一次原稿が完成し5月に修正着手した
- 地震工学論文集編集小委員会（清野副委員長、吉見幹事）
 - 研究発表会：10/25～27に開催
 - Vol.31Bには129編の最終原稿が寄せられた
 - 1編査読漏れがあり遅れているが、6月中にはJ-STAGEに載る

3. 予算配分方法の見直しについて

- 資料「拡幹 H24-01-03」に沿って藤原幹事長より説明が行われた。
 - 今年度より調査研究委員会の予算配分に関する活動度評価方法を見直すことになった
 - 目的は評価方法の簡略化と速やかな予算配分である
 - 新方式では行事参加者数と出版物購読者数の2点が評価され、収益は対象外となる
 - 収益が対象外となると、赤字行事でも参加人数が多ければそれでよいのか？（濱野幹事）→基本的に採算が取れる計画であることが前提である（秋山幹事）
 - 購読者数は出版委員会を通したもののみが認められるので、できるだけ新刊企画を出して欲しい（小長井委員長）→学会からの出版物は販売予想1.8億に対し1.3億どまりである。このような実態から採算性の良い委託出版に流れていく場合もある（山本幹事）
 - 行事参加者数として、シンポジウム参加者など一般参加者はカウントされるか？（竹内顧問）→カウントされるはずである（高橋幹事）
 - 数字の議論だけではなく、今後の委員会活動がどうあるべきか議論することが重要である（堀委員）
 - 小委員会活動が外から見える工夫が必要である（小長井委員長）
 - 行事計画は費用が発生しないものは出さなくてよいということであったが、今後は出していく必要があるのか？（富田幹事）→参加者数などが評価対象になるので、恐らくそのような記述のある計画が必要になると思われる

4. 地震工学研究発表会での小委員会活動報告について

- 資料「拡幹 H24-01-04」について小長井委員長より主旨説明がなされた。
 - 小委員会活動は委員会のコアとなっているが、積極的に行事に参加しないと内容を把握する機会がない。よって、地震工学研究発表会で発表の場を設けることを提案した
 - そこに行けばサマリーが聞けるというのが良い
- 以下のように総じて賛成意見が多く、進める方向で検討する。ただし、参加費や論文掲載料をどのように扱うか、事務局で他委員会の事例や小委員会経費の扱い方法を調べてもらい、検討する。
 - 津波避難調査小委員会（田中委員）：賛成
 - 水循環NW小委員会（竹内顧問）：賛成
 - 想定地震動研究開発小委員会（堀委員）：賛成
 - 地震防災技術普及小委員会（濱野幹事）：賛成であるが、共通小委員会でもあり、行事等でご

れまでも情報発信はしてきた。どのような形で参画できるか検討が必要

- 性能に基づく橋梁の耐震設計法に関する研究小委員会（高橋幹事）：小委員会に関わる論文を、委員会シンポジウムではなく研究発表会で発表するようにするのであれば反対であるが、委員会報告のような形で成果を共有するのであれば賛成
- 地震被害調査小委員会（高橋幹事）：調査団を派遣していれば報告会を開催しており、なければあまり報告することはないかもしれないが、調査団派遣に関わらず情報収集をはかっているので、それらを発表することは可能

（記録：濱野）